

**製品名: APRIL ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07060**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	23kDa

**抗原情報**

遺伝子名	TNFSF13 TNFSF13; APRIL; TALL2; ZTNF2; Tumor necrosis factor ligand superfamily member 13; A proliferation-inducing ligand; APRIL; TNF- and APOL-related leukocyte expressed ligand 2; TALL-2; TNF-related death ligand 1; TRDL-1; CD antigen CD256
別名	
遺伝子 ID	8741.0
SwissProt ID	O75888
免疫原	抗血清はヒト TALL-2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 151-200

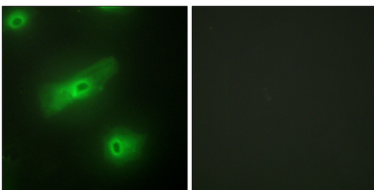
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、腫瘍壊死因子 (TNF) リガンドファミリーのメンバーです。このタンパク質は、TNF 受容体ファミリーのメンバーである TNFRSF17/BCMA のリガンドです。このタンパク質とその受容体は、B 細胞の発達に重要であることがわかっています。in vitro 実験では、このタンパク質が TNFRSF6/FAS や TNFRSF14/HVEM などの他の TNF 受容体ファミリータンパク質との相互作用を通じてアポトーシスを誘導できる可能性が示唆されました。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。上流遺伝子 (TNFSF12) の最後のエクソンをスキップして、この遺伝子の 2 番目のエクソンに続く転写産物がいくつか特定されています。このようなリードスルー転写産物は、GeneID 407977、TNFSF12-TNFSF13 に含まれています。[RefSeq 提供、2010 年 10 月]、機能: FN14 に結合し、TNFRSF12/APO3 にも結合する可能性があります。一部の細胞型において弱いアポトーシス誘導因子です。NF- $\kappa$ B の活性化を媒介します。血管新生と内皮細胞の増殖を促進します。炎症性サイトカインの誘導にも関与しています。機能: TNFRSF13B/TACI および TNFRSF17/BCMA に結合するサイトカインです。腫瘍細胞の増殖の調節に関与している可能性があります。単球/マクロファージを介した免疫プロセスに関与している可能性があります。誘導: ホルモンミリスチンアセテート/イオノマイシン処理によってダウンレギュレーションされます。PTM: 前駆体はフーリンによって切断されます。PTM: 可溶性形態は、タンパク質分解処理によって膜形態から生成されます。類似性: 腫瘍壊死因子ファミリーに属します。サブユニット: ホモ三量体 (潜在的)。血管新生因子 AGGF1/VG5Q と相互作用する。サブユニット: ホモ三量体。組織特異性: 形質転換細胞株、大腸癌、甲状腺癌、リンパ組織において高発現し、単球およびマクロファージにおいて特異的に発現する。組織特異性: 成人の心臓、膵臓、骨格筋、脳、大腸、小腸、肺、卵巣、前立腺、脾臓、リンパ節、虫垂、末梢血リンパ球において高発現する。腎臓、精巣、肝臓、胎盤、胸腺、骨髄では低発現する。胎児の腎臓、肝臓、肺、脳においても検出される。

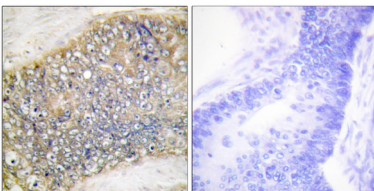
## 研究分野

-

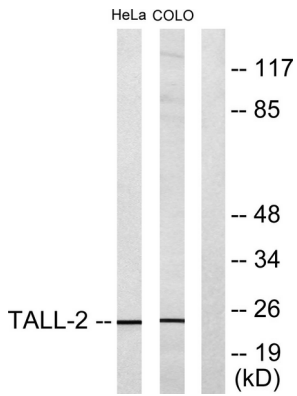
## 画像データ



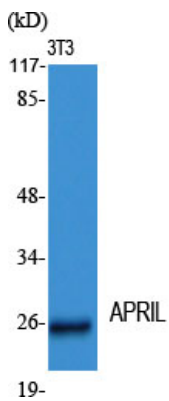
TALL-2 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



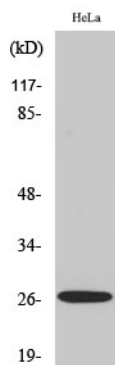
TALL-2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



TALL-2 抗体を用いた HeLa 細胞および COLO205 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



APRIL ポリクローナル抗体を 1: 2000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



APRIL ポリクローナル抗体 (1: 2000 希釈) を用いた COLO205 細胞のウェスタンブロット解析